


**栄養・子ども学部 子ども教育学科**
**教授 鈴木 智子 SUZUKI Tomoko**
**専門・活動分野 幼児教育学、発達心理学**
**最新の研究内容**
**テーマ：子どもの社会性の発達、保育者としての専門性の向上**
**研究/活動紹介**
**①集団生活における子どもの社会性の発達**

広義の子どもの社会性の発達に関する研究を行っています。子どもは保育所・幼稚園・認定こども園で同年代の子どもとの初めての集団生活を経験し、その中で他の子どもとの関わり方や習慣・態度を身につけていきます。関わりの内容は、思いやりに代表されるポジティブな関わりだけでなく、いざこざ・ケンカなどの一見ネガティブな関わりも含みます。幼稚園教育要領には、「自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性」と記されています。ここから、自己の表出（自己主張）から他者との関わり（葛藤・いざこざ含む）を通して、他者理解が進み、自己抑制が育つというプロセスが考えられます。

最初の自己主張は自己抑制に取って代わるわけではなく、自己主張と自己抑制のバランスの良い調整（制御）ができることが望ましいと考えています。またその成長の背景には子ども側の他者理解や状況の認知能力の成長、保育者の援助や園のルール・文化が影響していると考えられ、それらの影響や個人差等について研究しています。

また社会性の発達を支える保育者の援助、集団づくり、保育実践としてルールのある集団遊び、子ども同士の話し合い、などに関心があります。

**②保育者としての専門性の向上（学生含む）**

近年、就学前の幼児教育・保育がその後の人生に及ぼす影響の重要性が指摘され、同時に保育の質の向上が重要課題とされています。これまで、保育者の専門性に関連して職員間・保護者との連携、カリキュラムマネジメント、キャリア形成に関する研究を行って来ました。

また日常的に保育者を目指す学生の指導に携わる中で、指導計画の作成・記録・振り返りのプロセスを重視し、学生がより良い指導計画を立てられるような情報の整理や学生の記録を通じた成長に関心があります。

学生時代から現職者までを通じて、幼児教育・保育者としての成長に関する研究をしていきたいと考えています。

**産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項**

連携可能な研究分野：以下のような内容に関心がある方、施設と共同で研究を進めていくことができます。

- ・ 保育・幼児教育における子どもの社会性の発達
- ・ 子どもの仲間関係の構築、クラスの集団づくり
- ・ 保育におけるルールのある集団遊び、子ども同士の話し合い
- ・ 主に上記の内容に焦点を当てた保育者の専門性の向上（保育実践の振り返りと省察）

**学会・経歴**
**所属学会**

- ・ 日本発達心理学会
- ・ 日本発達支援学会
- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会等

**経歴**

- ・ 2004年より保育者養成校（短大、大学）に勤務し、2013年4月より現所属に勤務。
- ・ 教育学（修士）

&lt;お問合せ窓口&gt;

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp